

アナリスト レポート

緩やかな回復が続いている

県内景気天気図



凡例

- 晴れ
- 晴れ一部曇り
- 曇り
- 曇り一部雨
- 雨

前月比

- 上昇・好転
- 横ばい
- 下降・悪化

県内景気の動向

現状 県内製造業の生産活動を鉱工業生産指数で見ると、化学や輸送機械、鉄鋼、その他などは大幅に上昇したが、はん用・生産用・業務用機械や食料品、金属製品などが大きく低下したため、前月比では2か月ぶりの低下となった。生産状況の先行きをあらわす「出荷指数」と「在庫指数(製品在庫)」を前年比で見ると、出荷が11か月ぶりに低下し、在庫は7か月連続かつ大幅の上昇となっている。今後の動向を注視する必要がある。

需要面では、個人消費については、百貨店・スーパーの販売額はウエイトの高い飲食料品が全店ベースでは前月に続き前年を上回ったものの、既存店ベースでは引き続きマイナスで、他の品目はすべてマイナスとなったため、全体では両ベースとも10か月連続のマイナスで伸び悩んでいる。また、乗用車の新車登録台数は2車種合計で4か月連続のマイナスとなっている。一方、ドラッグストアの販売額は30か月連続のプラスで好調に推移し、家電大型専門店が3か月連続のプラス、さらにホームセンターも3か月ぶりに前年を上回り、コンビニエンスストア販売額は7か月連続のプラス、軽乗用車の新車販売台数は9か月連続のプラスとなるなど、一部では伸び悩んでいるものの、総じてみれば引き続き堅調に推移しているものと考えられる。また、民間設備投資の指標である民間非居住用建築物着工床面積は鉱工業用とサービス業用が前月に続き大幅に増加したため、3業用計では2か月連続の高水

京滋の景気動向

京都府・滋賀県の景気は、緩やかに拡大している。

個人消費は、持ち直している。設備投資は、増加している。住宅投資は、弱めの動きとなっている。公共投資は、持ち直している。生産、輸出は、

しがぎん
経済文化センター
(産業・市場調査部)

鉱工業の「在庫指数」は 7か月連続かつ大幅の上昇

2017年9月の県内製造業の生産状況を見ると、鉱工業生産指数(2010年=100)の「原指数」は107.7、前年同月比+3.6%で11か月連続の上昇となったが、「季節調整済指数」は104.6、前月比-4.9%で2か月ぶりの低下となった。この結果、季調済指数の3か月移動平均値(8月)は106.1、前月比-0.7%で、2か月ぶりに低下し、一進一退で推移している。しかし、依然、高水準が続く、リーマン・ショック直前、直後の高水準(08年8月、9月の105.7)を4か月連続で上回っている。

生産状況の先行きをあらわす「出荷指数」と「在庫指数(製品在庫)」を前年比で見ると、出荷が11か月ぶりに低下し(原指数105.8、前年同月比-1.9%)、在庫は7か月連続かつ大幅の上昇となっている(同136.4、同+26.5%)。在庫指数を業種別で見ると、「電気機械」(前月比+9.5%)や「鉄鋼」(同+4.5%)で大幅の増加となっている。

「家電大型専門店・ドラッグストア・ホームセンター」 販売額はすべて前年を上回る

9月の「百貨店・スーパー販売額(全店ベース=店舗調整前、対象店舗数は96店舗)」は20,538百万円、前年比-0.6%と、10か月連続の減少となっている。品目別にみると、ウエイトの高い飲食料品が前月に続き前年を上回ったものの(同+0.4%)、他の品目ではマイナスとなり、なかでも衣料品は15か月連続(同-2.5%)、家電機器は10か月連続(同-11.7%)、身の回り品は8か月連続(同-6.6%)、家庭用品は5か月連続(同-5.3%)のそれぞれマイナスとなっている。また、「既存店ベース(=店舗調整後)」の売上高は飲食料品を含めすべての品目でマイナスとなり、全体では10か月連続で前年を下回っている(同-2.5%)。

一方、「家電大型専門店・ドラッグストア・ホームセンター販売額(全店ベース=店舗調整前)」によると、9月の「ドラッグストア」(182店舗)は5,204百万円、前年同月比+9.2%で、30か月連続のプラスで好調に推移している。また、「家電大型専門店」(41店舗)は3,146百万円、同+9.5%で3か月連続のプラスとなっている。さらに、「ホームセンター」(62店舗)は3,233百万円、同+3.7%で、3か月ぶりに前年を上回った。16年7月から都道府県別の前年同月比伸び率が公表された「コンビニエンスストア販売額」(9月:563店舗)は、

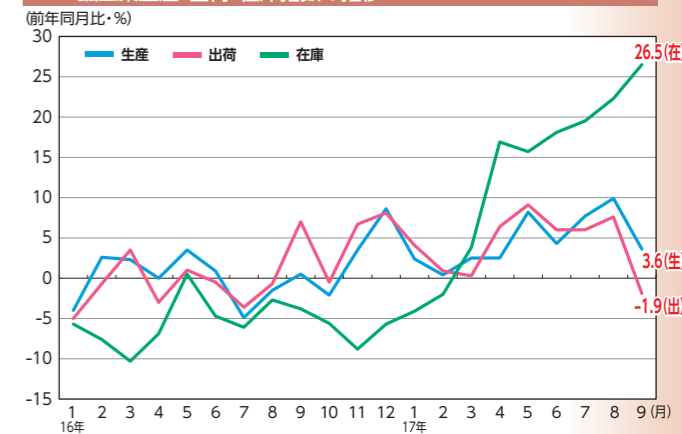
「民間非居住用建築物着工床面積」は 2か月連続の高水準かつ大幅のプラス

民間設備投資と関連の深い「民間非居住用建築物着工床面積」(10月)は3業用計で91,911㎡、前年同月比+101.7%で、2か月連続の高水準かつ大幅のプラスとなった。業種別にみると、「商業用」は2か月ぶりの大幅マイナスとなったが、「鉱工業用」と「サービス業用」は前月に続き大幅プラスとなった(「商業用」:2,855㎡、同-30.7%、「鉱工業用」:30,790㎡、同+18.4%、「サービス業用」:58,266㎡、同+277.6%)。

また、10月のトラック新車登録台数を見ると、「小型四輪トラック(4ナンバー車)」は前年と同じ台数にとどまったが(154台、同0.0%)、「普通トラック(1ナンバー車)」が再び前年を上回ったため(115台、同+26.4%)、2車種合計では4か月ぶりのプラスとなった

「在庫循環図」をみると、「在庫積み増し局面」から「意図せざる在庫増加局面」に移行した。今後の動向を注視する必要がある。

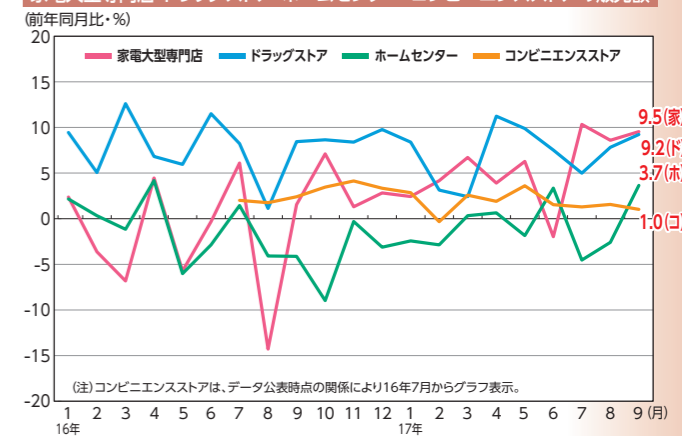
鉱工業生産・出荷・在庫指数の推移(滋賀県、原指数、2010年=100)



9,499百万円、同+1.0%で、7か月連続のプラスとなっている。

10月の「乗用車新車登録台数(登録ナンバー別)」をみると、「普通乗用車(3ナンバー車)」が4か月連続で前年を下回っているのに加え(1,454台、前年同月比-6.7%)、「小型乗用車(5ナンバー車)」も大幅に減少したため(1,060台、同-17.6%)、2車種合計は4か月連続かつ大幅のマイナスとなっている(2,514台、同-11.7%)。一方、「軽乗用車」の新車販売台数は9か月連続のプラスとなっている(1,785台、同+4.8%)。

家電大型専門店・ドラッグストア・ホームセンター・コンビニエンスストアの販売額



(269台、同+9.8%)。

民間非居住用建築物着工床面積の推移

